

2. 動物愛護管理功労者表彰受賞者

平成13年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
奥山 隆一	山形県 東根市	奥山隆一氏は、(社)山形県獣医師会事務局長として、「山形県動物愛護フェスティバル」の第1回(昭和56年)から長年にわたり、事業の立案、実施に積極的に参画し、適正飼養の普及啓発に努めるとともに、山形県動物保護管理協会設立のための準備委員として協会設立に努める等、動物愛護管理の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。
小林 几平	新潟県 長岡市	小林几平氏は、新潟県動物愛護協会設立に参画し、以後一貫して理事、会長等として、長年にわたり、動物愛護管理の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。
小林 金蔵	長野県 長野市	小林金蔵氏は、長年にわたり、長野県動物愛護会副会長等として、愛護会活動を推進するとともに、国内でも有数の技術と経験を有する犬の訓練指導者として、動物愛護指導員を努める等、動物愛護管理の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。
(社)北海道獣医師会(会長 金川弘司)	北海道 札幌市	(社)北海道獣医師会は、長年にわたり、動物愛護週間事業の実施、動物無料相談、適正飼養講習、犬猫の里親探しや譲渡会等の実施に努めるとともに、有珠山噴火災害に際しては、動物救護センターを開設し、小動物の保護収容に努める等、動物愛護管理の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。
(社)静岡県動物保護協会(会長 鈴木嘉富)	静岡県 静岡市	(社)静岡県動物保護協会は、全国に先駆けて、動物の愛護管理の普及啓発のため、県内の市町村、関係団体を組織化した団体として、長年にわたり、動物愛護週間事業の実施、しつけ教室、ふれあい活動の実施、里親探し活動、ねこの屋内飼養普及等に努め、地域における行政、民間の連携による動物愛護管理活動の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。

平成14年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
岡崎 地衣子	神奈川県 茅ヶ崎市	岡崎地衣子氏は、昭和40年から神奈川県茅ヶ崎市において、動物保護収容施設を運営し、飼い主が世話をできなくなったり、病気やけがをした犬や猫を引取り、新しい飼い主を探す活動をボランティアで献身的に続けるとともに、(財)神奈川県動物愛護協会会長等として神奈川県動物愛護管理行政の施策に協力する等、動物愛護管理の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。
吉田 俊元	岐阜県 岐阜市	吉田俊元氏は、永年にわたり地域の動物愛護、特に負傷動物の救護に尽力するとともに、(社)岐阜県獣医師会理事及び副会長等として、会の主要事業である動物愛護週間事業、学校飼育動物指導事業等に積極的に参画する等、動物愛護管理の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。
中島 修	滋賀県 甲賀郡信楽町	中島氏は、県内の関係市町村・団体が構成する(財)滋賀県動物保護管理協会設立に中心的な役割を果たすとともに、同協会事務局長、副理事長等として、県市町村とともに動物愛護を推進する気運をつくり、動物愛護フェスティバルの実施の他、「まちの愛犬家等」全国的にも先進的な事業を積極的に推進する等、動物愛護管理の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。
児島 廣事	福岡県 福岡市	児島廣事氏は、(社)動物福祉協会設立準備段階から中心的に携わるとともに、同協会設立時から理事として、動物福祉に関する事業と動物愛護思想の普及に積極的に取り組んでいる。特に、里親事業や避妊去勢の啓発事業の円滑な推進のために尽力し、犬及び猫の処分数の減少に貢献する等、動物愛護管理の推進に多大な貢献をしていることが高く評価できる。

平成15年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
藤井 多嘉史	東京都 北区	家庭犬の訓練やしつけに関し、全国各地におけるセミナー等の開催によるその重要性の普及啓発、訓練士の養成等による普及体制の整備、適切な実施方法等の技術開発等に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養のための助言・支援等に関して貢献。
森田 陽一	神奈川県 横浜市	(社)日本動物福祉協会の横浜支部の設立及び運営において中心的な役割を果たすとともに、遺棄された家庭動物等の再飼養支援活動、動物愛護管理に関するボランティア育成指導事業の実施などの地域に密着した実践的な活動を献身的に行う等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養のための助言・支援等に関して貢献。
鈴木 一則	静岡県 袋井市	(社)日本動物保護管理協会及び(社)静岡県動物保護協会の会長等として、日本獣医師会等の関係団体とともに、家庭動物の繁殖制限・個体識別措置に関する必要性の啓発及び普及体制の整備に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に関する普及啓発等に関して貢献。
ルイゼ・ハンセン	兵庫県 神戸市	(社)日本動物福祉協会の阪神支部の設立及び運営において中心的な役割を果たすとともに、関係行政機関等と連携しつつ、遺棄された家庭動物等の保護収容事業の実施及び助成基金の設立等による不妊手術の普及・支援などの地域に密着した実践的な活動を献身的に行う等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養のための助言・支援等に関して貢献。
(社)横浜市獣医師会	神奈川県 横浜市	市内小学校における学校飼育動物の適正飼養推進などの地域に密着した活動をはじめとして、全国紙等を活用した普及啓発事業の実施、各種シンポジウムの開催、家庭動物等の救護活動ボランティアの全国各地への派遣等のユニークな活動を献身的に行う等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に関する普及啓発等に関して貢献。

平成16年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
青木 守子	新潟県 長岡市	「捨猫防止協会・長岡」の設立及び運営において中心的な役割を果たすとともに、野良猫の不妊手術の普及・支援などの地域に密着した実践的な活動を行い、猫の適正飼養の推進にめざましい効果を上げる等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養等に関して貢献。
東出 義弘	石川県 金沢市	石川県獣医師会の会長等として、学校飼育動物の適正飼養の推進等において中心的な役割を果たすとともに、関係行政機関等と連携を図りつつ、家庭動物の適正飼養の普及啓発等に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養等に関して貢献。
林 一郎	長野県 松本市	いわゆる「地域ねこ活動」の実施などの地域に密着した実践的な活動を献身的に行うとともに、犬の適正飼養講習会の開催や特別養護老人ホーム等における動物とのふれあい活動の実施に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養等に関して貢献。

山浦 勇	長野県 上田市	犬猫の不妊手術に対する自治体の助成事業の創設及び運用について献身的な協力活動を行い、保健所等における犬猫の引取り数の減少にめざましい効果を上げるとともに、犬の適正飼養講習会の開催に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養等に関して貢献。
上原 誠夫	長野県 佐久市	長野県動物愛護会佐久支部の設立及び運営において中心的な役割を果たした。また、犬の飼養に関する相談・指導等をボランティアで行う「佐久家庭犬クラブ」の組織化に尽力するとともに、自らも同活動を献身的に行う等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養等に関して貢献。
河合 幹夫	岐阜県 大垣市	負傷動物の救護活動を推進するため、岐阜県獣医師会における「動物を守る会」の組織化に奔走するとともに、自らもボランティアとして負傷動物の保護や治療活動を献身的に行う等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養等に関して貢献。
松田 早苗	兵庫県 神戸市	阪神淡路大震災における被災動物の救護活動において中心的な役割を果たすとともに、(社)日本動物福祉協会阪神支部副支部長として不妊手術の普及や虐待防止調査の実施等の実践的な活動を献身的に行う等、長年にわたり動物愛護と適正な飼養等に関して貢献。
今畠 トシ子	兵庫県 西宮市	私財を投じて、(社)日本動物福祉協会の動物救護センターの整備に先鞭をつけるとともに、同施設の管理責任者として、遺棄された家庭動物等の保護収容・再飼養支援活動を精力的に行う等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養の普及啓発に関して貢献。

平成17年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
村上 朝子	栃木県 宇都宮市	(社)動物福祉協会栃木支部の設立及び運営において中心的な役割を果たすとともに、捨て犬及び捨て猫に対する電話無料相談や避妊・去勢の治療ボランティアとして尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に貢献。
信濃 禮子	千葉県 千葉市	捨て犬及び捨て猫の保護と新しい飼い主探しをボランティアとして献身的に続けるとともに、自作の紙芝居を活用した動物愛護に関する普及啓発に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養等に関して貢献。
尾上 多喜雄	東京都 豊島区	(社)日本愛玩動物協会の理事長として、動物の愛護と適正な飼養についての指導を行う者の各都道府県の組織の設立に中心的な役割を果たすとともに、指導者の発掘と育成に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に関し貢献。
太田 成江	神奈川県 横浜市	神奈川捨猫防止会の設立及び運営において中心的な役割を果たし、猫の不妊去勢手術の普及・支援活動を行うとともに、日本捨猫防止会の設立及び運営においてもその代表者として中心的な役割を果たし、猫の適正飼養の普及啓発等に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に関して貢献。
兵藤 哲夫	神奈川県 横浜市	(社)動物福祉協会横浜支部の設立及び運営において中心的な役割を果たした。また、ペット病院において獣医療を行う一方で、自治体との連携による動物等の保護収容及び譲渡活動に尽力するとともに、マスメディアや著作を通じた適正飼養の普及啓発を精力的に行う等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に関し貢献。
河合 慶子	兵庫県 神戸市	特別養護老人ホーム等への動物ふれあい活動を行うボランティア団体の設立及び運営に代表者として中心的な役割を果たすとともに、阪神淡路大震災における被災動物の救護活動において中心的な役割を果たす等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に関し貢献。
大枝 信義	岡山県 高梁市	ペット病院において獣医療を行う一方で、負傷した捨て犬及び捨て猫の救護や譲渡活動に献身的に取り組むとともに、動物愛護活動の地域の指導者として、動物愛護週間行事の企画・実施に尽力する等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に関して貢献。
優良家庭犬普及協会	神奈川県 横浜市	全国各地でしつけの行き届いた優良家庭犬の認定試験を行い、飼い主に対して犬の適正飼養と迷惑防止を徹底するとともに、犬のしつけ教室の開催や自治体の開催する講習会への講師派遣を行う等、動物の愛護と適正な飼養に関し特に模範となるような業績を上げて貢献。
社団法人名古屋 市獣医師会	愛知県 名古屋市	子犬及び子猫の新しい飼い主探しを行う「動物インフォメーションセンター」を開設し動物の譲渡活動に尽力するとともに、動物の飼養方法等の電話による無料相談を行う「テレフォンドクター」制度等のユニークな活動を献身的に行う等、長年にわたり動物の愛護と適正な飼養に関し貢献。

平成18年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
中村 紘	熊本県 熊本市	熊本市獣医師会長として動物愛護普及啓発に積極的に取り組む一方で、平成14年には熊本市動物愛護推進協議会を設立し、会長に就任。犬の譲渡事業を推進し、熊本市動物愛護センターの犬の殺処分率を平成13年度から平成17年度にかけて、72.6%から36.6%に引き下げるなど、動物の愛護と適正飼養に関して貢献。
前川 博司	東京都 世田谷区	昭和34年に国内唯一の動物愛護施設であった日本動物愛護協会附属病院及び動物保護シェルターの長に就任し、若い獣医師を育成するとともに、動物の保護収容、患畜の治療、動物の引取り、新しい飼い主探しを実施。昭和52年獣医科病院を開業し、動物愛護運動の先駆者として関係者に対し指導、相談等を行うなど、動物愛護の実践的な指導に貢献。
塩坪 三明	東京都 杉並区	「自然と動物を考える市民会議」を立ち上げ、猫の不妊去勢手術助成金を求める運動等を実施。「動物の法律を考える連絡会」を設立するとともに、具体的な項目の強化改善を求め、「動物の愛護及び管理に関する法律」の成立に貢献。また、「動物との共生を考える連絡会」の事務局長として新法のもと、更なる取組を精力的に展開し、愛護運動に貢献。
田中 稔隆	東京都 世田谷区	動物の愛護と適正な飼養及び管理について、普及啓発するための指導者の養成として「愛玩動物飼養管理士」を約5万名輩出するなど日本愛玩動物協会の組織の充実と財政基盤の確立に貢献。
山口 安夫	東京都 西東京市	総理府動物保護審議会専門委員等において「産業動物の飼養及び保管に関する基準」、「動物の処分方法に関する指針」などの策定に参画し、動物愛護管理行政の基盤作りに貢献。また、その経験と専門的学識を発揮して、動物の愛護と動物の適正な飼養の普及・啓発活動に貢献。
石田 貞夫	和歌山県 和歌山市	犬猫の「糞便自宅持ち帰り袋」等を考案し、無料配布を実施することにより、飼い主のマナー向上に貢献。和歌山放送(WBS)のメインキャスターとして「動物愛護、愛玩動物何でも相談」コーナーを永年担当。県内初の動物愛護フェスティバルを企画、実行し、獣医師会の動物愛護週間事業として毎年開催。県の「動物保護管理施設」の設置に当たり検討委員として和歌山県動物愛護センターの完成に尽力する等、和歌山県の動物の愛護管理に貢献。
デビフペット株式会社	新潟県 新潟市	動物愛護思想の普及啓発に努め、補助犬育成支援やペット飼育マナーの向上などの活動を継続。新潟県中越豪雨災害及び新潟県中越大地震に際しては、避難所を始め仮設住宅での動物飼育者支援や被災動物の救助活動に大きく貢献。

平成19年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
大石 光雄	静岡県掛川市	昭和58年に静岡県動物保護協会を設立し、初代理事となり以後23年間協会に尽力する等、地域のリーダーとして動物の適正飼育に対する助言・指導を実施するほか、動物愛護組織の役員として永年努め、動物愛護思想の普及と啓発に貢献。
藏内 勇夫	福岡県筑後市	福岡県獣医師会長として、①動物愛護週間行事に「動物健康相談コーナー」を設置、②盲導犬診療事業を導入し、無償診療(フィラリア予防剤の投与等)を実施、③犬・猫の過剰繁殖制限対策に着手、不妊・去勢手術のマニュアルを作成する等、犬・猫の殺処分頭数の減少に貢献。
田中 傳	神奈川県鎌倉市	ペット業界に従事し、神奈川県のパペット業者の組織化、日本鳥獣商組合の設立、(社)日本愛玩動物協会の設立等に参画し、組織の確立及び家庭動物の適正飼養の普及啓発に尽力し、ペット業界の健全な発展と育成に貢献。
山本 悦	兵庫県神戸市	捨て犬、捨て猫やこれ等に対する救護活動を実施し、現場に徹した地道な活動を一層実施。また、兵庫県南部地震に際し、阪神動物救護センターのボランティア活動に献身的な尽力。現場活動を退いた後も動物たちに係る電話相談等を担当するなど、そ動物愛護の推進に貢献。
鷲尾 敏子	東京都日野市	上野動物園、多摩動物園に日参して動物たちの生態研究に勤しみ、動物の目線からの数多くの著書で発表する。また、動物愛護週間中央行事において、自作の動物紙芝居上演を実施し、多くの子どもたちに感動を与えるなど動物愛護の普及に貢献。

平成20年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
青木 貢一	東京都町田市	(社)日本動物病院福祉協会の設立に参画。利用者のニーズに対応する動物病院作り及び獣医学の知識・秘術の向上を目指す。同会長に就任し、「家庭犬のためのしつけインストラクター養成講座」開設の礎を築き、「犬のしつけ」の啓発に力を注ぐとともに、「動物との共生を考える連絡会」の代表として、「動物愛護管理法」の普及・改正に貢献。
中島 紀史子	兵庫県神戸市	昭和50年より野良猫の不妊・去勢手術を施す等の動物救護活動を開始。以来、多数の不妊・去勢手術に取組む。阪神・淡路大震災の際は、阪神動物救護センターでボランティア活動等に従事。(社)日本動物福祉協会阪神支部会員として、一貫して現場に徹した地道な動物愛護活動に貢献。
西村 尚一	大阪府箕面市	長期にわたりペット業界に従事し、業界の健全な発展と育成に寄与。(社)日本愛玩動物協会の運営等に参画し、関係行政機関と連携を図りつつ、家庭動物の適正飼養の普及啓発に尽力。動物愛護管理の普及啓発のための指導者として「愛玩動物飼養管理士」約8.5万人を養成・輩出することに貢献。
馬場 國敏	神奈川県川崎市	湾岸戦争、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震等国内外の緊急災害時において、ボランティアとして人と動物の救援活動に貢献。また、自費でボランティアセンターを開設し、川崎市教育委員会と提携し、児童の野外授業として動物愛護の講義と動物とのふれあいの実践を行うことで地域に貢献。
前島 一淑	神奈川県横浜市	総理府動物保護審議会委員、環境省中央環境審議会動物愛護部会委員等として、長期にわたり動物愛護管理全般の推進のため多大な貢献。「実験動物の使用及び保管等に関する基準の解説」「動物の処分方法に関する指針の解説」等の執筆を通じ、実験動物の適正な飼養管理を幅広い関係者や関係機関に普及徹底することに大きく寄与。
山本 義晴	静岡県静岡市	長期にわたり、静岡県が行う動物保護関係事業の推進に積極的に参画、昭和52年静岡県動物保護協会発足後の組織強化や公益法人化に尽力。負傷動物保護収容措置業務指定獣医師として、動物の保護及び愛護精神の高揚、普及推進に尽力する他、高度な専門的知識や技術を生かし、地域での動物の保健衛生の向上にも積極的に取組み、地域社会の発展に多大な貢献。
九州地区獣医師会連合会	沖縄県那覇市	九州・沖縄の獣医師会の連合組織として、捨てネコの防止、不妊・去勢手術の推進、飼育動物の適正飼養の啓発、野生動物保護・救護活動、学校における診療活動・学校訪問活動等を積極的に推進、地域の動物愛護管理の推進に多大な貢献。希少野生動物であるツシヤマネコ、イリオモテヤマネコへの、飼いねこからの重大なウイルス感染等を防ぐため、飼いねこのウイルス検査、不妊手術、マイクロチップ挿入等を無料で行い普及啓発するなど、地域の野生動物保護と飼育動物の適正管理推進に大きく貢献。

平成21年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
大矢 秀臣	神奈川県横浜市	中央環境審議会野生生物部会移入種対策小委員会専門委員、同部会外来生物対策小委員会専門委員、同審議会動物愛護部会臨時委員、同部会ペットフード小委員会専門委員として、動物愛護管理法の改正、ペットフード安全法の制定及び外来生物法の制定等に尽力。動物の愛護と適正飼養及び管理について普及啓発するための指導者である「愛玩動物飼養管理士」約9.4万人を養成・輩出した功績は大。長期にわたり(社)日本愛玩動物協会の役員として、協会の基盤の確立とその後の発展に寄与。
小池 智幸	新潟県長岡市	新潟県動物愛護協会設立時から運営に積極的に参画し、永年協会役員として協会育成強化に尽力。新潟県動物愛護協会中越(長岡)支部の役員として、様々な活動を通じて愛護思想・適正飼養の普及啓発に尽力。中越沖地震の際、新潟県が行った被災動物の一時預かり事業にボランティアとして献身的に貢献。
杉山 公宏	静岡県熱海市	大学在職時には、教育・研究などの業務に加え、各種動物の病理学検査による病因究明に尽力。総理府動物保護審議会委員並びに環境省中央環境審議会動物愛護部会臨時委員として、動物愛護管理に係わる審議に参画。動物愛護管理全般の推進のため多大な貢献。(財)日本動物愛護協会理事として、協会広報誌編集委員長、動物愛護親子教室検討委員長を務めるほか、調査研究事業研究代表者として各種研究に尽力。
深井 克己	長野県諏訪郡下諏訪町	長野県動物愛護会発足時より役員として会の運営、活動の方針等を計画立案するなど主導的立場で尽力し、動物愛護会の基礎を築く。昭和56年に動物愛護会湖北支部を発足させ、動物愛護思想の普及啓発を行う。平成14年の諏訪支部との統合を中心的な立場で取りまとめ、諏訪郡内の組織構築と基盤を作る。長野県が主催する動物愛護週間、動物の正しい飼い方普及月間、動物愛護フェスティバル等の行事にも積極的に取り組む姿勢は功績に値する。
森田 トヨ子	神奈川県横浜市	ボランティア組織「新しい飼い主を探す会」を有志3名で立ち上げ、里親探しを懸命に続け、これまでに犬猫約5,000匹以上を助命。横浜市などと共同で地域の催事などの際にブースを開設。不妊去勢手術や適正飼育などの啓発活動を実施。「動物愛護推進員の歩み」展示会の開催、推進員の推薦に当たるなど、横浜市や区に協力して動物福祉の理念の実践、啓発に尽力。現在、日本動物福祉協会横浜支部副支部長として、自宅の一部を提供するなど、献身的な努力を積み重ねている。市の動物愛護センター構想(来年度設立予定)に全面協力して、ボランティアの組織化を推進するなど、昭和50年以來一貫して地域の動物愛護活動に貢献。
熊本県獣医師会 菊池支部	熊本県菊池市	熊本県において動物愛護と適正飼養に関する普及啓発活動に積極的に取り組んでいる。昭和61年から継続して動物愛護まつりを開催し、家庭犬のしつけ教室やマナー講座、動物愛護に関するパネルポスター展示等を実施。現在は、多くのボランティア(小学校、高校、大学等)スタッフが参加し、動物愛護管理の普及啓発に貢献。平成14年度から学校飼育動物の適正飼養に関し行政と連携し、学校への支援を開始。専門家としての積極的な取組みが、動物愛護管理の推進に今後とも大いに期待できる。

平成22年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
石井 文子	群馬県 高崎市	日本動物愛護協会初となる支部である群馬支部長として、譲渡会を行うための施設を開設し、飼い主・保護者に対して、毎週の土日に譲渡の場を設け、希望者への譲渡活動に取り組んでいる。群馬県より犬猫譲渡等推進事業を受託し、8年間で約6千頭の犬猫を救済するとともに、譲渡希望者に対し約千回に及ぶレクチャーを行い、適正飼養・終生飼養啓発活動に尽力している。 日頃の犬猫の譲渡活動の経験談に基づいた動物の愛護及び管理に関する講演活動に精力的に取り組み、命の尊さについて触れつつ、動物愛護思想の普及に尽力している。
加藤 元	東京都 杉並区	日本動物病院協会を設立し、世界で最も進歩していたアメリカの獣医学及び獣医療を国内でも学び実践するため、獣医学各科専門医を招聘し、家庭動物医療を飛躍的に進歩させた。また、ヒューマン・アニマル・ボンド(人と動物の絆)の理念の普及・啓発に尽力している。 高齢者施設等に家庭犬を伴って訪問する活動(動物介在活動)を日本に紹介したことを契機に、動物愛護と福祉に配慮した活動に尽力した結果、現在では用語として「アニマルセラピー」が一般的となり、全国的に活動が展開されている。更に、動物行動学を基本とする科学的根拠に基づいた、強制力を用いずほめることによって良い行動を認識させるしつけの方法を全国的に普及させた功績は極めて大である。
經徳 禮文	千葉県 柏市	(社)ジャパンケネルクラブ理事長及び本協会常任理事並びに副会長として、長きにわたり当協会並びにペット業界の健全な発展と育成に貢献し、また、関係行政機関と連携を図りつつ、家庭動物の愛護精神の高揚と適正飼養の普及啓発に尽力した。 動物の愛護と適正な飼養及び管理について普及啓発するための指導者の養成として、「愛玩動物飼養管理士」約10.2万名を輩出した功績は極めて大である。
杉谷 篤志	福岡県 福岡市	(社)福岡県獣医師会の組織改革に取り組み、産業動物部会、公衆衛生部会、小動物部会の3部会体制の確立に貢献した。 天然記念物のヤマネコ保護に関する功績は顕著であり、九州各県の獣医師会に呼びかけて九獣連ヤマネコ保護協議会を立ち上げて、絶滅が危惧されているツシマヤマネコとイロオモテヤマネコをイエネコの伝染病から守るため、対馬と西表島に動物診療所を整備し、5種混合ワクチン接種を推進する事業に尽力した。
溝口 俊夫	福島県 安達郡 大玉村	野生動物専門獣医師の草分け的存在だが、その活動範囲は傷病野生動物の治療にとどまらず、市民参加の環境教育、人と野生動物の共生計画など多岐にわたる活動に尽力している。 小中学生や市民の為の環境教育、人と動物との共生を目指すエコロード設計、生物多様性地域戦略の策定など、幅広い活動を展開している。自治体や獣医師会と連携したネットワーク構築、市民ボランティアとの協働による救護活動、積極的な講演活動や自然観察を基にした子供達への教育活動等の分野で、多大の貢献を果たしている。
山口 武雄	神奈川県 大和市	犬猫の殺処分減少のため、無料またはボランティア価格にて犬猫の不妊手術を行っている(年間手術数約6千頭)。経営する病院を里親探し会場として無償提供し、シェルターの病院内への設置、日本初となる移動式病院による不妊手術活動を全国で行っている。 雲仙普賢岳噴火の際に1ヶ月間、阪神・淡路大震災の際に4ヶ月間現地に滞在し被災動物の治療と不妊手術を行った。更に、プータン国より招聘され、現地で主に不妊手術の指導を行った結果、術後死亡率が90%から10%に大幅に改善した。また、スマトラ沖地震による津波の際、現地に1ヶ月間滞在し、被災動物の疾病・怪我の治療と不妊手術を行った。 実験動物繁殖業者倒産に伴う440頭の犬猫置き去り(富山県)の際、全頭の不妊手術と疾病治療を、また200頭の多頭飼育崩壊現場(山梨県)において全頭の不妊手術を行った。更に、御蔵島(東京都)において、オオミズナギドリ保護のため、野生化した猫約120頭の不妊手術を行った。
山根 晃	千葉県 千葉市	若くして千葉県獣医師会の役員に就任し、負傷動物救護事業、千葉県野生動物救護対策事業及び傷病野生鳥獣救護事業などの立ち上げから運用まで積極的に取り組み、動物愛護の普及啓発に尽力した。 獣医師会副会長に就任後、社会福祉及び動物福祉の観点から獣医師会の事業として、福祉介護犬の活躍を支えるため、健康管理及び保持を目的とした福祉介護犬医療助成制度を創設した。現在も千葉県動物愛護管理推進協議会副会長、千葉市が行う動物愛護フェスティバルの推進会議副会長として動物愛護活動に尽力している。

平成23年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
青木 慶祐	静岡県 静岡市	平成5年から3年間、(社)日本獣医師会の公衆衛生部会委員、平成6年度から9年間、(社)静岡県獣医師会の理事を務め、獣医事衛生や公衆衛生の増進に多大な貢献をした。 平成6年5月から平成18年5月まで、(社)静岡県動物保護協会の副会長、会長を歴任し、卓越した指導力で協会の組織、活動の推進に尽力した。その功績により同協会は平成13年に環境大臣表彰(動物愛護管理功労者/団体の部)を受賞した。現在は同協会顧問の立場で貢献を続けている。 その他、これまでに全国動物愛護推進協議会個体識別研究会委員、静岡市日本平動物園整備計画検討委員会委員長を務めるなど、高度な専門知識と指導力により動物保護・愛護思想の普及啓発に多大な貢献をしてきた。
伊月 高憲	徳島県 徳島市	平成元年に社団法人日本動物福祉協会徳島支部設立以来、支部を拠点に、ボランティアと協力しながら組織的に地域猫活動を行ってきた。また、県、警察と協力して捨て犬や捨て猫の多発地点に看板の設置や定期的な見回りを実施。 平成5年に徳島県獣医師会常務理事就任後、徳島市の協力を得て、四国の県庁所在地都市としては初の市委託による不妊去勢手術事業を開始。現在、徳島県内の98%の市町村で不妊去勢手術が獣医師会の事業として行われているが、その先鞭をつけたものである。 平成5年以降、県とともに動物愛護週間事業を実施してきたが、平成15年4月からは県から徳島県獣医師会が受託する形で、動物愛護推進事務所を県動物愛護センター内に設立、動物愛護思想の啓蒙、普及活動に尽力している。
高原 利雄	東京都 品川区	ペットフード工業会会長、一般社団法人ペットフード協会会長及び一般社団法人日本ペット用品工業会筆頭副会長として、長きにわたり該当協会並びにペット業界の健全な発展と育成に貢献した。 ペットフードの安全性確保の取組を更に主導的に行うべく体制・活動をより強化することを目的に任意団体から一般社団法人へと移行し、名称を一般社団法人ペットフード協会へと改組した。 関係行政機関と連携を図りつつ、ペットフード工業会のみが業界自主基準を制定し、その運用・遵守に長らく努めて、平成19年7月に法制化の機運が訪れ、官民協力して実現に向けた活動が実を結び、平成20年5月に「愛が動物飼料の安全性の確保に関する法律(ペットフード安全法)」が制定され、平成21年6月の施行まで尽力した。 環境省発行の冊子「飼い主のためのペットフード・ガイドライン」等の発行に「動物愛護管理法」の精神に則って協力し、動物愛護の啓蒙活動を実施した。 環境省、(財)日本動物愛護協会等主催の動物愛護週間中央行事(動物愛護ふれあいフェスティバル)に毎年出展し、正しい動物愛護の啓蒙に参画している。
(社)東京都獣医師会世田谷支部	東京都	昭和44年から年1回世田谷区役所内で行っていた犬の譲渡会を、昭和57年から馬事公苑において世田谷動物フェスティバルとして開催し、動物との触れ合いや適正飼育などの普及啓発を推進。 特に、動物の所有明示措置としてのマイクロチップの普及啓発に努め、この結果、世田谷区のマイクロチップ登録数は現在東京都内で最多。

平成24年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
小川 和雄	新潟県 新潟市	平成12年5月に新潟県動物愛護協会会長に就任後、新潟県内の動物愛護団体をまとめ上げるなど新潟県内の動物愛護の推進に尽力してきた。 平成16年の新潟・福島豪雨と中越大地震、平成19年の中越沖地震、平成23年の東日本大震災において、動物救済本部の一員として協会を代表し、被災動物救済のため尽力した。
河邊 弘子	三重県 津市	平成12年5月には「特定非営利活動法人 人と動物との共生をめざす会」を立ち上げ、当法人の理事長として長きにわたり動物への人道的配慮及び動物福祉の思想についての普及啓発活動を献身的に行っている。平成20年12月からは三重県動物愛護管理推進協議会の副会長として、三重県の動物愛護管理事業の推進に尽力している。 特に、全国の自治体では初の試みである県庁内での動物介在活動等を三重県と協働で実施し、その後、県内の地域機関にまでその活動を広げるなど、動物愛護、適正飼養等の普及啓発について、他の模範となる業績を上げた。
佐良 直美	東京都	昭和41年から、個人として捨て犬・猫を保護し、自宅で飼養するとともに、当時の日本動物福祉協会湘南支部の活動を支援してきた。 平成5年、家庭犬しつけ教室「アニマルファンシアーズクラブ」を設立。体罰を使わない新しいしつけ方や飼い主との絆づくりの方法の普及に貢献している。 平成6年10月から優良家庭犬普及協会の設立に関わり、人とコンパニオンアニマルの共存する社会の実現に尽力している。
猿田 勝文	長野県 大町市	昭和57年長野県動物愛護会大北支部設立から会の運営に積極的に関与し、会の理事として支部組織をまとめている。 平成11年長野県動物愛護会副会長に就任し、現在まで県の組織の中核として、県動物愛護フェスティバルやシンポジウムの開催に強いリーダーシップを発揮するとともに、動物愛護思想の啓発に尽力している。
公益社団法人 茨城県獣医師会	茨城県	昭和56年から動物愛護に関する事業を開始し、昭和58年9月動物愛護の観点から茨城県初の動物霊園「慈苑」を設立し、運営を開始。 「ペット無料健康相談事業」、「動物ふれあい教室」、「飼い犬のしつけ方教室」の開催、繁殖制限措置事業、マイクロチップの普及事業などの各種取組を通じて、茨城県の動物愛護管理行政の推進に尽力している。

平成25年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
澤井 順	静岡県 伊東市	昭和58年に市民を対象とする「犬の正しい飼い方教室」を始め、その後も行政等が主催する「犬の飼い方教室」や「動物愛護教室」に講師として参画し、これまで長年にわたり、一般市民の動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養知識の普及啓発に貢献している。 平成20年からは(一社)静岡県動物保護協会の動物保護管理指導員として、動物愛護についての普及啓発、適正飼養の指導、動物に関する各種相談等の活動を献身的に行っている。
柴内 裕子	東京都 港区	昭和61年に、日本動物病院協会(現(公社)日本動物病院福祉協会)の会長として、動物を連れて高齢者や障害者の施設、病院、学校等を訪問し、動物とのふれあい方や命の大切さを学んだりすることを目的とする活動を開始し、これまでの長年にわたり、その活動の発展に尽力している。 三宅島の噴火や東日本大震災の際には、被災動物の保護や治療、新たな飼い主探しなどのボランティア活動を行っている。 自治体等の動物愛護管理関連委員会の委員を歴任し、動物愛護管理行政の推進に貢献している。
砂原 和文	秋田県 秋田市	昭和56年から、学校飼育動物の健康診断や診療、飼育指導を開始し、これまでの長年にわたり、その活動を継続し、学校飼育動物の適正飼養管理や子どもたちの動物愛護意識の高揚に貢献している。 平成2年から、獣医師会や県等が共催で開催している「動物愛護フェスティバルあきた」の実行委員会の中心メンバーとして参画し、飼育動物相談や長寿動物飼い主表彰の創設を主導するなど、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養知識の普及啓発に貢献している。 平成7年には、獣医師会のホームページに、災害に対する日頃からの備えについて、情報を掲載し、その普及啓発を図った。また、平成22年には秋田県獣医師会会長として、県と災害時の動物救護活動に関する協定書の締結を主導した。

平成26年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
蜂谷 信子	長野県	昭和54年に、長野県動物愛護会設立に携わるとともに、長きにわたり、飼い方教室において飼い主を指導するとともに、家庭犬のインストラクター養成講習会を運営する等、動物の適正飼養の知識や動物愛護思想の普及啓発に貢献している。 昭和56年より、「犬の散歩中の糞ポイゼロ活動」を牽引するとともに、会員の人材育成や飼い方教室等への助言を行う等して、会の事業を進展させ、動物の適正飼養知識の普及啓発に貢献している。
坂本 政子	岐阜県	平成13年に、Dogボランティアクラブを立ち上げ、代表として、動物を連れて高齢者や病院等を訪問し、動物とのふれあい方や命の大切さを伝える活動を開始し、これまでに多くの施設を訪問し、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発に貢献している。 平成17年から、小中学生を対象に動物愛護教室を開催し、多くの小中学生に命の大切さや動物についてのふれあい方を教育し、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発を行っている。 平成23年より、犬等の動物を連れて東日本大震災被災地の仮設住宅を訪問し、慰問活動を行っている。
須田 沖夫	東京都	昭和62年から、幼稚園での動物とのふれあい教室を開催するとともに、社団法人日本動物病院福祉協会(当時)会員として、10年以上にわたり、動物を連れて福祉施設を訪問する等して、命の大切さや動物とのふれあい方を教育し、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発を行っている。 平成12年から、学校における飼育動物の管理の指導やふれあい教室を開催し、学校飼育動物の適正飼養や動物愛護思想の普及啓発に取り組んでいる。 平成18年より、(社)東京都家庭動物愛護協会(現在、(一社)家庭動物愛護協会)会長として、新たにシンポジウムやしつけ講習会等の活動を開始するとともに、普及啓発パンフレットの作成配布等の普及啓発事業を企画運営し、会の発展に貢献するとともに、動物愛護思想の普及啓発に貢献している。

木村 芳之	群馬県	平成11年から、獣医師会が主催する動物愛護ふれあいフェスティバルを企画、運営し、平成13年からは(公社)群馬県獣医師会副会長、平成16年からは同会長として、県内各地で動物愛護ふれあいフェスティバルを主導、発展させ、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発に貢献している。 (公社)群馬県獣医師会副会長、会長として学校における飼育動物の衛生管理やふれあい教室を主導、発展させ、子どもたちに命の大切さや動物の適正飼養の知識の普及啓発を行っている。 また、(公社)群馬県獣医師会会長として、群馬県の総合的動物愛護施設の設置に向けて、署名活動や議会への請願、県議団の視察を主導する等、平成27年4月開設予定の施設設置の原動力となった。
長野県 動物愛護会 松塩筑支部	長野県	昭和59年に、支部が発足以来、「ペット無料健康相談」や動物愛護週間等での普及啓発活動を継続的に実施するとともに、昭和63年より、普及啓発のための機関誌を発行し、行政、小中学校及び獣医師会等へ配布する等、長きにわたり、動物の適正飼養や動物愛護思想の普及啓発に貢献している。 平成4年から、犬のしつけ方教室を開催するとともに、平成15年からは猫の飼い方相談会、平成16年からは犬の飼い方相談会を開催し、動物の適正飼養の推進に貢献している。 平成6年より、動物を連れて福祉施設を訪問する等して、命の大切さや動物とのふれあい方を教育し、動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発を行っている。

平成27年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
会田 保彦	埼玉県	昭和58年以来、(公財)日本動物愛護協会職員及び役員として、国や自治体等の動物関係委員会の委員を歴任。活発な講演・執筆活動により、動物愛護思想の普及啓発に寄与してきた。 平成15年5月に「緊急災害時動物救護マニュアル」を作成し、行政機関や各地方獣医師会等に無償配布。その後の新潟県中越地震や東日本大震災で活用された。 平成23年3月に「動物救護ボランティアテキスト」を作成。災害に備えた具体的な対応策として、獣医師、獣医学生、動物看護大学生、動物専門学校生等を対象とした専門ボランティア育成の教材として活用されている。
安田 幸子	東京都	昭和57年の(公社)日本動物福祉協会の理事就任時から、優れた語学力を生かし、諸外国の先進的な動物福祉精神を同協会に取り入れることに尽力した。 平成3年5月に発生した雲仙普賢岳災害や平成7年1月の阪神淡路大震災の際には、資金担当理事として動物救済基金を組成し、被災動物の救済に貢献した。
高橋 徹	北海道	昭和55年より、負傷した所有者不明の犬猫の治療及び傷病野生動物の救護をボランティアとして開始し、北海道が当該活動を事業化する先鞭をつけた。 平成16年9月には札幌市小動物獣医師会会長として、道内初の大規模な動物愛護フェスティバルを開催し、現在までその運営に関わり発展させることを通じて、道民の動物愛護意識の高揚や動物の適正飼養の知識の普及啓発に貢献してきた。 平成16年の北海道動物愛護推進協議会設立時から同協議会の座長を務め、道内の動物愛護管理行政と民間との協同の推進について、中心的な役割を果たしてきた。
公益社団法人 栃木県獣医師会	栃木県	昭和23年に県獣医師会設立。昭和41年からの狂犬病予防注射事業の実施、昭和53年からの傷病鳥獣救護獣医師診療事業への協力などを通じ、栃木県における動物愛護管理行政に貢献してきた。 平成13年からは県内の学校を訪問し、学校飼育動物に対する飼育指導を延べ680回、ふれあい授業を延べ682回実施するとともに、平成16年より、学校飼育動物の適正飼養指導研修会を69回行うなど、動物の適正管理の推進や動物愛護思想の普及啓発に貢献してきた。

平成28年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
山崎 薫	東京都	昭和53年より「ヤマザキカレッジ日本動物看護学院(現・ヤマザキ学園)」にて教鞭をとり、学園創立から現在まで約40年間にわたって、動物愛護管理の啓発に務めた。 環境省等が開催する動物愛護週間中央行事において、迷子札の配布、参加動物への一般身体検査や家庭で可能なグルーミングの指導、犬のグルーミング実演、愛犬のしつけ方教室、動物功労賞授与式の補佐などのボランティア活動に携わり、長年に渡り動物愛護の啓発活動を推進してきた。 環境省中央環境審議会動物愛護部会の委員として、同部会において専門的な知見に基づく発言を行い、「動物の愛護及び管理に関する法律」の適切な運用等に寄与した。 平成28年4月に発生した熊本地震においては、飼い主とペットを繋ぐ迷子札2,000個を熊本県内の避難所や保健所等に無償提供し、大きな被害を受けた被災動物の支援を行った。
金田 京子	東京都	日本動物病院福祉協会の事業として昭和62年から開始したCAPP活動(Companion Animal Partnership Program=人と動物のふれあい活動)の黎明期から参画し、ボランティアをまとめるチームリーダーとして活躍するなど、継続的なCAPP活動を実施するための基盤構築に大きく貢献した。また、協会のCAPP委員会の委員を務めるとともに、現在は委員会アドバイザーとして後任の指導にあたり、家庭動物の社会的役割について、幅広く普及啓発を行ってきた。 平成17年より動物関連の専門学校において教鞭をとり、動物愛護や動物福祉、人と動物の絆に関する幅広い知識の普及・啓発に務めた。
公益社団法人 福島県獣医師会	福島県	長年にわたり福島県と連携しつつ、動物愛護週間事業をはじめ、学校飼育動物の治療費の助成や、譲渡した犬及び猫の不妊去勢手術支援事業を実施するなど、福島県における動物の愛護と適正飼養の普及啓発に大きく貢献してきた。 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故においては、発災直後から被災ペット救済支援センターを開設し、被災ペットとその飼養者に対して支援を行ったほか、福島県動物救護本部を設置し、シェルターにおいて被災ペットの健康管理にあたった。また、飼い主への返還や新しい飼い主への譲渡支援にも力を注ぎ、その結果、県が保護した1,000頭にも及ぶ被災ペット全てを飼い主等のもとに届けることができた。 平成27年からは、東日本大震災から得られた教訓を踏まえ、迷子になったペットが一頭でも多く飼い主の元に戻れるよう、マイクロチップ装着に関する助成事業を実施している。

平成29年度受賞者

受賞者	住所・所在地	主要功績
玉井 公宏	和歌山県	昭和60年～平成5年に、ローカルラジオで家庭動物の適正飼養の帯番組を企画・出演するとともに、和歌山県獣医師会主催の動物愛護週間行事や、和歌山県主催の動物愛護週間行事の企画・運営に携わり、県民の動物愛護意識の高揚や適正飼養知識の普及啓発に貢献してきた。 平成20年には、和歌山県動物愛護推進協議会会長として県の災害時の動物救護活動を始め動物愛護管理推進計画の策定に尽力した。 平成28年には、県獣医師会において地域猫への不妊去勢事業を県から受託できる体制を整備し、事業実施により猫の殺処分数の減少に貢献した。
平井 潤子	東京都	平成12年の三宅島噴火災害で動物救護活動に参加した後、「人と動物の防災を考える市民ネットワーク アナイス」を立ち上げ、活動を開始。被災地の実態調査等を継続的に実施・整理分析し、講演会や大学での講義等を通じて、災害に備えることの重要性について普及啓発してきた。 ペットとの同行避難を推奨するとともに、「動物愛護対策」から「人道支援」へと自治体での体制整備の切り口を変えていくことで、検討を進めやすい環境を整備した。 三宅島噴火災害、新潟中越地震、東日本大震、熊本地震では、救護活動本部の立上げ、シェルター設置、ボランティア活動のルール作り等に従事した他、平時からの自治体での人材養成のプログラム整備等に携わってきた。 マイクロチップの機能や効果、全国自治体へのアンケート調査による普及率や飼主の意識等の詳細を示したマイクロチップ専用サイトを先駆けて開設。ペット保険会社のテキストに引用されるなど、マイクロチップに関する正しい情報提供に貢献した。
公益社団法人 福岡県獣医師会	福岡県	長年にわたり、福岡県と連携しながら動物愛護週間事業、学校飼育動物支援事業、動物愛護情報誌発行、地域猫活動支援事業などの動物愛護推進事業に積極的に取り組み、動物愛護管理行政に大きく貢献するほか、独自に地域の要望により所有者不明猫の不妊去勢を行う「あすなろ猫事業」を実施し、地域における猫の過剰繁殖問題の解決に貢献している。 平成25年には、全国初となる災害時派遣獣医療チーム（VMAT）を設立し、平成28年の熊本地震の際に被災地に派遣。ペットに係る相談対応や被災動物の治療などの支援活動は、メディアにも大きく取り上げられた。平成28年からはVMATとともに避難所やシェルター等で活動する災害時動物救護サポーター（ARS）の認定講習会を開催している。